



2年団

学年通信

第8号

期末考査頑張ろう！！編
平成29年6月29日発行



提出物で評価が変わる！！

1学期の期末考査が7月3日から始まります。考査が始まる前に再度、提出物がなかなか出せない人提出日が遅れる人へ、今回は完全提出できるようしっかり対策をしてください。

宿題が期限内に提出できない傾向と対策

①宿題があることを忘れるタイプ

- <傾向>・時間にルーズな人 計画的に行動できない人
- <対策>・玉翔夢手帳を活用してメモする。
- ・一番目に留まる場所にメモする。メモがなければ手に書く。



②面倒臭いタイプ

- <傾向>・すぐ楽な方へ流される人 嫌いなことはしない人
- <対策>・嫌なことを後回しにしない 帰宅後何よりもまず宿題をする
- ・家庭で保護者とルールを作る 宿題をするまで〇〇しないなど



③わからないからやらないタイプ

- <傾向>・最初から提出する気がない人 将来の目標が明確でない人
- ・高校はみんな卒業できると考えている
- <対策>・将来何になりたいかを考える
- ・目標実現のために課題提出は必要なのかを考える
- ・わからなければ授業後すぐに友達や先生に聞く
- ・家庭教師を雇うなどやらなければいけない環境を自分で作る
- ・高校には留年があることを自覚し、自分は進級できないかもしれないという危機感を感じておく



高校2年生になっても提出物が出せない人へ、まずは提出できない理由について考えて見ましょう。宿題は小学1年生から与えられているはず。考えられる上記3項目以外の要因として、家庭学習の習慣が身につけていない、時間や期限のルールを軽く考えている、成績や評価に全く関心がない等が挙げられます。

<教員（大人）が提出物を出させようとする理由>

1. 評価（進路）に大きく影響するため。
2. 将来期限や時間のルールが守れる社会人になるため。
3. 大人になって嫌なことから逃げる人間にならないため。
4. 課題提出という小さな積み重ねの習慣が、いつか大きな成果や信頼を生むようになるため。

「ど力のつぼ」(これは小学一年生が書いた作文です。)

「お母さん、ど力のつぼのはなし、またして。」「ウンいいよ。こんどはなあに。」「さかあがり。」「あらあら、まだいっぱいになってなかったのね。ずいぶん大きいね。」と、いいながら、お母さんは、いすをひいてわたしの前にすわりました。そしてもうなん回もしてくれた「ど力のつぼ」のはなしをまた、ゆっくりとはじめました。それはこんなおはなしです。



人がなにかをはじめようか、いままでできなかったことをやろうと思ったとき、かみさまから「ど力のつぼ」をもらいます。そのつぼには、いろいろな大きさあって、人によって、ときには大きいのやら小さいのやらいろいろあります。そしてそのつぼは、その人には見えないのです。

でも、その人がつぼの中に、いっしょうけんめい「ど力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「ど力」があふれるとき、つぼの大きさがわかるというのです。だから休まずにつぼの中に「ど力」を入れていけば、いつか、かならずできるときがくるのです。

わたしは、このはなしが大好きです。ようちえんのとき、はじめてお母さんからききました。そのときは、「よこばしご」のれんしゅうをしているときでした。

それから、「ーりん車」「てつぼうのまえまわり」「とびばこ」「竹うま」。なんでもがんばってやっていると、お母さんにたのんで、このはなしをしてもらいます。

くじけそうになるときでも、このはなしをきいていると、心の中に大きなつぼが見えてくるような気がします。

そして、わたしの「ど力」がもうすこしであふれそうに見えるのです。だから、またがんばる気持ちになれます。お母さんのいうとおり、この「さかあがり」のつぼは、ずいぶん大きいみたいです。「さかあがり」をはじめてから、もう二回もこのはなしをしてもらいました。でも、こんどこそ、あとすこしで、あふれそうな気がします。だから、あしたからまたがんばろうと思います。

お母さんは、「つぼが大きいとたいへんだけど、中みがいっぱいあるから、あなたのためになるのよ。」といってくれるけど、こんど、かみさまからもらうときには、もうすこしちいさなつぼがいいなあと思います。

(明治図書 子どもの作文珠玉集—子供を変えた「親の一言」作文二十五選から引用)

先日、野球の練習試合で東洋大姫路高校に行ったときのこと。ベンチにこんな言葉が貼ってあり、感銘を受けたのでみなさんに紹介します。これは甲子園を本気で目指そうとしている人へ向けたメッセージですが、何かを本気で目指している人にも通じるメッセージだと思います。

あまさ、弱さの払拭

このくらいでいいだろう、なんて存在しない。
勝負の世界、がんばっているかどうかは他人が決める。
やった気分、わかった気分に決してならない。
とことんまで自分に厳しく追及せよ。
折れない、逃げない、諦めない。
限界を越えると、その先に新たな限界が出現する。
その限界を日々越えることが鍛錬であり成長である。
逃げなかった者、やり遂げた者、歯を食い縛り続けた者だけが最後あの場所に立つ。